

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

モンキードッグ

全国の中山間地域では、サルによる農作物の被害が深刻化しています。

最近では、家屋への侵入や家財の破壊を引き起こすという群も出てきています。今後は、人的被害も視野にいれなければなりません。

そこで、モンキードッグ（以下MDと表記）活用が強化です。平成16年に長野県大町市が全国に先駆けて取り組みを始め、現在その動きは全国に定着しつつあります。

犬やサルは、元々集団で生活し、縄張り意識の強い動物です。普段人間のそばにいる犬と山の中で暮らすサルは縄張りが重なることはありませんが、人間が犬を連れて山へ出かけると猿の縄張りに入ることで、互いに縄張り意識の強いものに激しく反発することになります。MDと飼いが、毎日サルの縄張りを巡回する事で、サルの集団が集落に近寄らなくなり、農作物被害を防ぐ効果が期待されるのです。

もちろんこれまでもあらゆる対策を講じてきましたが、人間の仕掛けにはすぐ慣れてしまいます。野生環境において動物同士が互いに緊張感を持って生活しており、この緊張感を利用する試みがMD

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会（以下協議会と表記）では、4年前から導入。現在、協議会で認定されているMDは21頭です。MDが配置された地区でも効果にはバラツキがあり、一概には言えませんが、被害がほとんどなくなったという地域もあります。

だが、1頭のモンキードッグが守れる範囲には限界があり効果は局所的でもありません。モンキードッグがいる地域にサルが出没しなくなっても、サルが活動エリアを移動させただけでは意味がありません。現在、点のよう配置しているモンキードッグを、協議会全域に帯状に配置するには、最低でも現在頭数の倍が必要だと思えます。

MD運用が順調に進展しているなか、平成25年度から国からのMD育成補助は打ち切られ、協議会ではMD育成訓練士を養成中ですが、未だ道半ばで先が見えてきません。

地域がMDの効果を楽しみ期待しているなかで、その運用を先細りさせてはなりません。

犬の加齢は早く世代交代の時期が迫っています。一日も早い新世代の誕生を地域は待っています。

サル群に異変？ ～酷暑～

今年夏は異常な暑さが連日続いています。サル達はどうのうに過ごしているのでしょうか？

6月頃から、B群の所在の確認が取れない日があるというメールが時々ありましたが、7月に入りその頻度は多くなり、A群にも及んでいます。異常な暑さのためでしょうか？

サルは体温は人間より高く38度位だそうです。ニホンザルは、北限のサルといわれ寒さには強く下北半島の極寒にも耐えられますが、酷暑にはどうでしょう？

3年ほど前に、インド北部の森林で200頭以上のサルが、酷暑のため死亡したというニュースがよみがえってきます。獣害対策指南員によると、日中は奥山の涼しいところで過ごし、朝夕の比較的涼しい頃を見計ら

だが、モンキードッグは万能薬ではありません。一つのツールと考

え、サルの嫌がる環境作りや追い払いと併せてその効果が発揮できるものと考えて下さい。

いエサを求めて集落に出没というパターンで遊動しているそうです。所在不明の時は、幅広い各集落の聞き取り調査の強化を計るのも一つの手法だと思います。

イノシシ 被害地域広がる

矢川でのイノシシ被害といえば三谷川筋で、大なり小なり毎年のように被害が起きていました。ここ2～3年前から矢川でも比較的山際から離れた、平坦な圃場（七つ溝付近）にも出だし始め、今年ではもう被害が出始め重大被害が心配されています。

近づくににくくする対策が挙げられます。昔からこれらの習性を利用した様々な対策が行われてきました。この方法は、あくまでも収穫前の一時的な対策と思つて下さい。

● 侵入防止柵
侵入防止柵の設置は、最も効果的な方法の一つで、他の多くの獣にも効果があります。大事なものは、イノシシは意外にも機敏で身体能力も高いという点を踏まえることです。

● 環境の整備
イノシシは開けた場所を嫌います。このため山林内や藪に沿って移動することが多く、真つ先に狙われるのは山林や藪に面した農地です。

● 掘り返す能力に優れている。
● 力が強く、鼻先で60kgの物でも持ち上げてしまう。
● 意外にもジャンプ力があり、1m程度の高さも飛び越えてしまう。
● 20cmの隙間でもくぐり抜けてしまう。
● 侵入防止柵と言っても、板状のもの、網状のもの、電気柵など様々なものがあり、経済面、管理面などにそれぞれに一長一短があります。

● 忌避剤
イノシシの嫌がる匂い、音、視覚効果などにより

としてトタン板で囲むものがあります。視覚を遮蔽する効果があり、設置も比較的容易です。

一挙に3頭！

7月20日、矢川での出来です。今年夏は、矢川でアライグマによるスイカの被害が頻発しました。7月15日檻を仕掛け待つこと、5日ナント。ナント。一挙に3頭捕獲！。親子連れ。親1頭に子供2頭。こんなことは珍しいとのこと。

サルの出没状況 名張A・B群

今年の夏は異常な暑さでサル達は、酷暑を避けて奥山の涼しいところへ過ごしているらしい。集落に出没する時間帯は、早朝と涼しくなる「夕まぐれ」だそう。

指南員報告

8月のサルの動向
A群は、先月はひなち湖と青蓮寺湖周辺の木の芽や、木の実などを狙い往来していたが、それもなく今月に入って日中は集落近くの山中にとどまる日が多い。

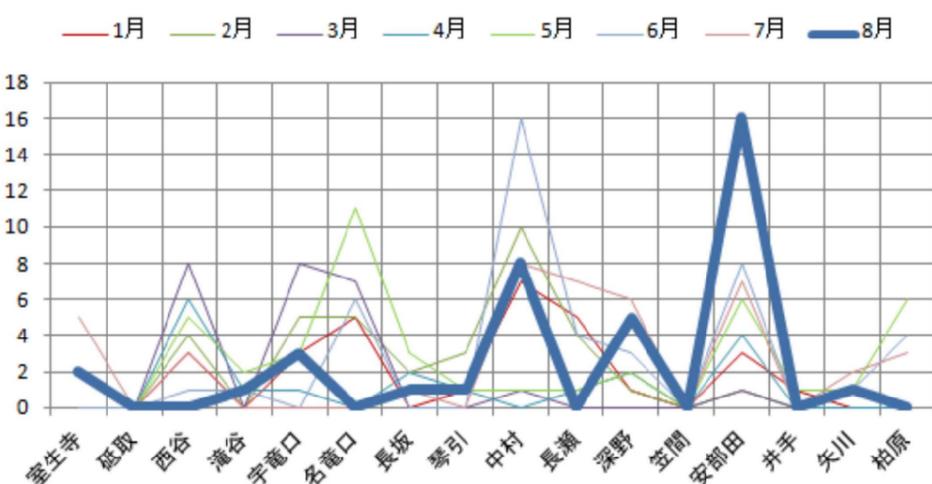
朝夕の涼しくなった頃、集落に出没して農作物に被害を出している。
B群は、先月の中頃室生寺付近で目視して以来、目視できない日が続いている。受信は、B3のみでB1・B2は受信不能状態が続いている。

ハナレサル出没の報告を、各集落でよく聞く。



矢川でアライグマ一興に3頭捕獲！！

名張B群移動グラフ



名張A群移動グラフ

